

被爆70年

広島・長崎は、な

んだ
た
の
か
？

2015年

10月17日(土)

日比谷公会堂

Hiroshima
Nagasaki

開 会 13:00 開 場 12:00

資料代 500円

障がい者・高校生以下無料

主催 被爆70年のつどい 実行委員会

—今を戦前にしないために

広島・長崎はなんだったのか？—今を戦前にしないために

2015年10月17日(土) 開会 13:00 開場 12:00 日比谷公会堂

資料代: 500円 障がい者・高校生以下無料

後援 広島市・長崎市

企画内容

○音楽劇「まほうのたね」

—F・パブプロ「茶色の朝」より
作者: 山谷典子 演出 辻輝猛



毎日の暮らしの中で感じるちょっとした違和感。「でも、私だけじゃないし…」「言ったところで、どうせ変わらないし…」と、やり過ごしてしまう。

こうした何事もなかったように振舞う私たちの態度こそが戦争へと続く道なのではないか…。

戦後七十年を迎えるこの国が、再び過ちを繰り返すことのないように祈りをこめ、国を越え、時代を越える強いメッセージを持つ「茶色の朝」を原案に物語を紡ぎました。親子で楽しめる音楽劇です。

○被爆者が語る70年

○リレートーク

未来に向けて—今を戦前にしないために

- ・杉山千佐子さん(全国空襲被害者連絡協議会・顧問)
- ・照屋仁士さん(日本青年団協議会会長 沖縄在住)
- ・村上正晃さん(広島平和公園ガイド)
- ・高校生平和ゼミナール
- 他

広島と長崎に原爆が投下されてから70年が経ちました。この節目の年に、「非核・非戦」という日本の姿勢を確固たるものにするために、広島・長崎の原爆被害と被爆者の70年を改めて振り返る必要があるのではないのでしょうか。

原子爆弾は21万人の命を奪うとともに、地獄を生き延びた生存者にも戦後いのち、くらし、こころに苦しみをおよぼし続けてきました。この体験に基づき、被爆者は一貫して核兵器の廃絶と原爆被害への国家補償を求めてきましたが、日本政府は無情にも被害を「受忍(ガマン)」することを強いてきました。この「受忍」政策は、一般空襲被害や中国残留孤児など、アジア・太平洋戦争で日本政府が生み出した戦争被害者に対しても向けられています。

そして今、政府は国の戦争犠牲「受忍」政策を、これからの戦争にも広げようとしています。このことは、70年前の戦争を体験した世代はもとより、体験していない世代、特に現在の若者にとっても見過ごすことはできません。「平和」で安心して暮らせる社会の実現やそれを根底から支える現憲法そのものが危ぶまれているからです。

「ふたたび被爆者をつくらないために」という願いとこれに基づいた被爆者の要求には、過去の戦争被害だけでなく、現在そして未来の問題も含まれています。被爆者の70年の歴史を振り返ることは、戦争を体験しているかしていないかを問わず、すべての人びとにとって重要なことなのです。私たちは、戦争被害者と戦争を体験していない世代の人々がお互いに集える場として、この集会を開催します。

よびかけ人

岩佐幹三(日本被団協代表委員) 小林節(慶応義塾大学名誉教授、弁護士) 早乙女勝元(作家、東京大空襲・戦災資料センター館長) 澤地久枝(作家) 瑞慶山茂(弁護士、沖縄・民間戦争被害者の会顧問弁護士) 高橋哲哉(東京大学大学院教授) 谷口稜暉(日本被団協代表委員) 坪井直(日本被団協代表委員) 直野章子(九州大学准教授) 西崎文子(東京大学大学院教授) 濱谷正晴(一橋大学名誉教授) 肥田舜太郎(日本被団協顧問、医師) 山田洋次(映画監督)

主催 被爆70年のつどい実行委員会

日本原水爆被害者団体協議会、原水爆禁止日本協議会、原水爆禁止日本国民会議、全国空襲被害者連絡協議会、日本生活協同組合連合会、日本青年団協議会、日本宗教者平和協議会、全国地域婦人団体連絡協議会、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

お申込み・お問い合わせ

被爆70年のつどい実行委員会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-5 ゲイブルビル9F 日本原水爆被害者団体協議会内

電話 03-3438-1897 FAX 03-3431-2113

Eメール hibaku70jikko@gmail.com



日比谷公会堂

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-3

Tel 03-3591-6388

東京メトロ丸ノ内線 霞ヶ関駅 B2出口より徒歩5分

東京メトロ日比谷線・千代田線 日比谷駅 A14出口より徒歩3分

都営三田線 内幸町駅 A7出口より徒歩2分

チラシデザイン: 大西 裕菜

このチラシは被爆者の思いが未来へ継承されるように、被爆アオギリをイメージして作りました。